

劇団風の子

スクラム★ガッツン

作/田中つとむ
演出/中島 研
制作/大森靖枝

準備完了! 第2号計画



絵/神門やすこ

2020年10月25日(日) 午後3:00開演(午後2:40開場)

会場:茅野市民館 マルチホール 特設会場(定員200名)

主催:茅野おやこ劇場 お問い合わせ TEL:090-3540-9270(古賀) Mail:chino_oyako_gekijyou@yahoo.co.jp

共催 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

後援 茅野市教育委員会、富士見町教育委員会、原村教育委員会、信濃毎日新聞社、長野日報社、市民新聞グループ(7紙)、LCV

TICKET

チケットについて 全席自由(定員200名)

おとな 2,000円

子ども 1,000円(高校生以下)
(当日各500円増)

未就園のお子様(3歳未満)はひざ上鑑賞無料です。
お席が必要な未就園のお子様はチケットをお求めください。

●チケット取扱い

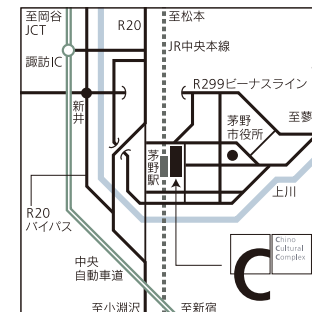
茅野市民館 TEL:0266-82-8222 FAX:0266-82-8223

受付9:00~20:00 火曜休館 ※火曜日が祝日の場合、
その直後の休みでない日

茅野おやこ劇場 TEL:090-3540-9270(古賀)

Mail:chino_oyako_gekijyou@yahoo.co.jp

●チケット発売日 2020年9月12日(土)



【会場アクセス】

茅野市民館

<http://www.chinoshiminkan.jp/>
〒391-0002

長野県茅野市塚原一丁目1番1号

●JR中央本線・茅野駅下車、東口直結

●中央自動車道・諏訪ICより車で約12分

ご来場の皆さまへご協力をお願い

ご来場の皆さまに安心してご鑑賞いただけるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策にご協力をお願いいたします。

●ご来場前

- ・発熱や風邪のような症状がある場合、体調のすぐれない場合は、ご来場をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス対策のためご来場いただけない場合、チケットの払い戻しについては茅野おやこ劇場までお問い合わせ下さい。
- ※新型コロナウイルスに感染された方がご鑑賞された場合に備え、お客さまのご連絡先をチケット購入時にうかがいます。ご協力をお願いいたします。

「3つの密」を避けるため、会場内では客席の間隔をあけております。また、館内の換気や、扉・手すりなど手で触れる箇所を重点的に各所の消毒・清掃を強化しております。なお、スタッフは上記の対策を徹底して、皆さまをお迎えいたします。

お互いへの思いやりで劇場での時間を楽しく過ごせるよう、皆さまのご協力を心よりお願いいたします。

●ご来場時

- ・マスクを着用いただき、咳エチケットにご協力ください。
- ・入場時の検温と、手指消毒にご協力ください。
- ・他のお客さまとの間隔をあけて、混雑の解消にご協力ください。
- ・飛沫予防のため、客席・ロビーでは対面での会話を極力お控えください。

茅野おやこ劇場って?

茅野おやこ劇場はプロによる多彩なジャンルの作品を親子で定期的に楽しんでいます。

また、親子や異年齢の仲間と「あそぶこと」を通してさまざまな体験をしたり、子どもから大人まで“仲間作り”をしています。

こんな時代だからこそ、子どもも大人も少しホッとする場所があるといいですね。

興味がある方は 茅野おやこ劇場のホームページをご覧ください。

ホームページ

茅野おやこ劇場

<http://www.chino-oyako.jp/>





生きるのって楽しい

●作者から皆さんへ●

ぼくは生まれてからこれまで、おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、たくさんの方たち、近所のおじさん、おばさん、いろんな人に支えられて、六十歳を過ぎることができました。そして今はお芝居をしながら、楽しくて楽しくてしかたのない毎日を送っています。

子どものころは自分が嫌いで、友だちがうらやましくて、ときどき生きていくのがつらいと思うこともありました。

今、悩んで苦しい気持ちになっっている人もいるかもしれませんが、そんな人がこのお芝居をみて、「生きるのって楽しい」と感じ、少し元気になってもらえたら、ぼくは幸せです。

作◎田中つとむ



■スタッフ 作・脚本／田中つとむ 演出／中島 研 音楽・効果／曲尾友克 美術／浅野井優子・風の子大道具プロジェクトチーム 照明／高木雄大 制作／大森靖枝

公演をお届けするにあたって

茅野おやこ劇場は、再発足して今年で10年を迎えます。この記念に地域の皆さんと一緒にできることを、昨年から準備をしておりました。新型コロナウイルス感染症の影響下にあつて、今回開催することを大変悩みましたが、子どもたちの一度しかないこの今に、できることをしたいと思いました。感染予防対策をしっかりとして、目の前で繰り広げられる舞台劇をお届けします。友だちの姿、自分の姿を思い描きながら、一歩踏み出す勇気が湧いてくるように思います。

コロナ禍により、文化芸術を享受するすべも変化を余儀なくされています。茅野市民館も地域の劇場として、今だからこそできることを実践しながら、地域の皆さんと改めて、演劇や実演芸術といった生で感じる体験の奥深さを、ゆったり、じっくりと味わうことができたいと思っています。こどもたちへ、そしてまわりのすべての皆さんへ、あしたの希望をお届けしてまいります。

あらすじ

小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。
自分たちでつくったひみつ基地がマンション建設のため壊された。
「くそっ！」

皆、走って走って走って、着いたところは橋の下。「新しいひみつ基地をつくるまでは、ここを集まる場所にしよう！」

今度の学年お楽しみ会の出し物に、自分たちのやりたいことをやろうと言いだしたものの、歌は無理だし、ダンスはもつと無理。「じゃ、劇やらない？」「えー！」と、劇に決まる。

テキスト『小学校劇の本』を読みながら、斉藤は、ますだ屋のおばさんから借りた本『熊と弓』を台本にして、五郎ちゃん、たつあん、ブーヤン、島ちゃんの五人の劇の練習が始まった。しかし、いろんな困難が押しよせてくる。さあ、五人はこの大きな壁を乗り越えることができるのでしょうか。
(上演時間 75分)

仲間といっしょに未来をつくる

演出◎中島 研

一回しかない子ども時代を、仲間と群れて遊び、豊かな、そしてずっしりとした体験をとおして、子どもらしく生きていってほしい。そんなことを思ったとき、この作品がうまれました。
いろんな色や、いろんな音があるように、私たち人間も一人ひとり、皆がう感性や個性をもって生きています。それは、とても素敵なこと。五人の子どもたちが、いろんな価値観や考え方の違いにぶつかりながら、笑い、泣き、怒り…、一人ひとりが自分と相手と真剣に向かいあい、お互いをちよつと認めあい、仲間と一緒に一本のお芝居をつくりあげるまでを描いています。

『子どもらしい』とは、『本来子どもが持っているもの』とはどんなことなのか、この劇を上演しながら、これからも探り続けたいと思っています

